

◇◇◇◇◇ はじめに ◇◇◇◇◇

本教育センターでは、小学校理科における科学研究の意義や課題を明確にし、科学研究を積極的に授業で取り扱い、理科の学習をより充実したものにするために、次の3点を2年間にわたり調査研究しました。

①「科学研究を進めるうえでの課題」

「児童や教師」が、どのような悩みや課題を持っているのかを明らかにする。

②「科学研究の指導の工夫」

科学研究の指導計画作成や授業の在り方等を構築する。

③「教師用の資料」

児童が主体的に科学研究に取り組むための資料を作成する。

科学研究は、児童が、身近な自然現象の中から自由に研究テーマを選び、自らの発想に基づき、各自の能力と個性に応じて問題解決を行うものです。したがって、科学研究は理科の学習の成果を土台にして成立するものです。また、科学研究を通して得られた自然に対する驚きや興味・関心は、理科の授業への学習意欲を更に高めると同時に、児童の主体的な学習のエネルギーになり、理科の学習に大きく影響するものと考えます。教師の支援により、児童が科学研究を通して、「自ら考え、自ら学ぶ」ことの大切さを認識し、「科学研究はおもしろい。もっとやってみたい。」と感ずることが、「科学する心」をはぐくむことであると考えます。

児童一人一人が、教師の適切な支援でやる気を起こし、主体的に科学研究に取り組むことを期待して、本ガイドブックを作成しました。学校や地域の実態に合わせ、本ガイドブックを活用していただければ幸いです。

平成18年3月

熊本県立教育センター所長

濱田 賢明